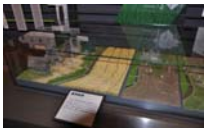
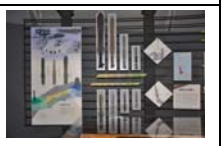
小学校3・4年生上社会科教科書（東京書籍版）と常設展示等対応表（収蔵物・学芸員による講義を含む）

番号	教科書			当館所蔵資料名	解説文
	単元名	掲載頁	キーワード		
1	古い道具と昔のくらし	102～105	古い道具	蓑、笠、石臼、囲炉裏、かまど、ランプ、蓄音機・洗濯板・七輪・アイロン	博物館で学ぶ②「昔のくらしと道具体験」で解説
		106～109	昔の家	海の民家 	海の民家…大正時代の建築といわれている。強い潮風から家を守るため、屋根は瓦葺の切妻で、全体的に低く造られている。 愛媛は、大小160余の島々が点在する瀬戸内海とリアス式海岸が連なる宇和海に面し、延長1,624kmに及ぶ海岸線を持つ海洋県である。 このため、古くから漁業や海運などが盛んで、魚島の朝鮮出漁や桜井の椀船などには、人々が進取の気風に富み、積極的に海にかかわってきた一面がうかがえる。 ここでは、瀬戸内海の漁村今治市宮窪町宮窪地区浜の人々のくらしの様子を取り上げている。
				里の民家 	里の民家…昭和初期の建築。玄関に続く広いニワ（土間）は、藁打ちや俵編みなどのために設けられたものだが、このころにはその機能は薄れ、装飾を兼ねた間仕切りにさえぎられ、美観を重視した造りになっている。 道前・道後平野や大洲・宇和盆地などは、肥沃な土地と水に恵まれ、古くから稲作を中心とする農業が盛んで、愛媛の重要な穀倉地とされてきた。こうした里に住む人々は、稲作を一年の生活の基準とし、田植えなどの共同作業を通して村人の連帯感を培ってきた。 ここでは、里のくらしとして、道前平野の農村西条市丹原町田野地区筋違の人々のくらしの様子を取り上げている。
				山の民家 	山の民家…明治時代後期の建築といわれている。代々家を大切に守ってきた山の人々の家への思いを反映し、太い部材や漆喰の壁などを使って、堅牢に造られている。 愛媛の県土の多くは、山の緑におおわれ、農林産物や水資源の貴重な供給源となってきた。 山に住む人々は、斜面を開墾した田畑の耕作、焼畑による農業、樹木の伐採や狩猟など、さまざまな自然環境に適応しながら、多様なくらしを営んできた。 ここでは、山に生きる農民の生活として、南予の山村西予市城川町野井川地区竜泉のくらしの様子を取り上げている。
2	のこしたいもの、つたえたいもの	116～117	昔からつづく祭り	太鼓台、だんじり 	東予の祭り…新居浜市の太鼓台や西条市のだんじりなど大型山車の練りが特徴で、装飾が著しく発達した屋台を「見せる」祭礼である。地域によっては継獅子やお供馬などの行事も行われる。
				神輿 	中予の祭り…神輿の鉢合わせや走り込みなどでにぎわう。松山祭りでは、神輿の激しい闘争そのものを「見せる祭り」の最大の要素としている。旧北条市の秋祭りでは、構造はシンプルだが、笹花を高く立てた「だんじり」が50台近く登場する。
				牛鬼、鹿踊り 	南予の祭り…牛鬼や鹿踊りが祭りの花形であると同時に、四ツ太鼓の担ぎ方の勇壮さや、人形屋台の豪華さも特徴である。また、地区ごとに異なった練物を出し、地区間の装飾の競い合いという様相は見られない。
		118～119	古くからつたわるげいのう	伊予万歳、文楽、鹿踊り 	中予地方に広く分布する伊予万歳は、かつては門付けで行われた三河万歳が娯楽化したもの。久万高原町では、地元の人々により歌舞伎も行われている。また、明治時代から昭和時代初期にかけて県内で流行した人形浄瑠璃は、現在南予地方を中心に5つの座が残っている。

中学社会科教科書（東京書籍版）と常設展示等対応表

2016.8.19現在

番号	教科書			当館所蔵資料名	解説文等	
	単元名	掲載頁	キーワード			
1	日本列島の誕生と縄文文化	22･23･32	旧石器時代	旧石器時代打製石器	和口遺跡（愛南町）出土	
2		32	ナウマンゾウ	ナウマンゾウの牙 旧石器時代の狩猟風景	ナウマンゾウなどの動物を狩猟	
3		33	縄文時代	上黒岩岩陰に住む人々 縄文人と縄文犬	人々がドングリやイノシシの肉を調理している様子 埋葬された縄文犬としては上黒岩岩陰遺跡が最古の事例	
				線刻礫 地層断面	女性の姿が刻まれた日本最古の線刻礫 上黒岩岩陰遺跡	
4			縄文土器	隆起線文土器（久万高原町上黒岩岩陰遺跡）複製	縄文時代草創期 愛媛県最古の縄文土器を復元したもの。 土器の口の部分に細い粘土紐を貼り付けた文様が特徴。	
5			屈葬	土墳墓	地面に穴を掘り、体を強く折り曲げて葬る屈葬と、体を伸ばした状態で葬る伸展葬がある。共同墓地の土壙墓、甕棺墓、石棺墓などに埋葬された。	
6			土偶	土偶	縄文人は、自然に霊威を認め、呪術によって災いを防いだり、豊かな収穫を祈ったりした。土偶や岩偶、木偶などはそのとき使われたものと考えられる。右は、人の足をかたどっていると考えられているが、なぜか指は7本ある。	
7			遺跡	四国地域における縄文草創期の主な遺跡分布図	愛媛県の上黒岩岩陰遺跡（久万高原町）、穴神洞遺跡（西予市城川町）のように、縄文時代草創期の人々は、洞穴や岩陰を居住地に利用することで定住化への一歩を踏み出したとも考えられる。	
8	弥生文化と邪馬台国	30	稲作	石斧、石庖丁、鉄鎌、鉄鍬、鉄鋤、農耕風景	弥生時代の後期になると、徐々に木製農具にかわって鉄製農具が使用されるようになり、鉄器の時代を迎える。	
9			青銅器や鉄器などの金属器	銅剣、銅矛	朝鮮半島から伝わった小型で細形の銅矛、銅戈、銅剣のうち、瀬戸内には銅矛と銅剣が分布。細形から大きくて刃をもたない広形へと形状が変化し、庸とも武器から祭器へと変わる。	
10			たて穴住居	弥生時代の住居	半田山遺跡（西条市）をもとに、弥生時代の竪穴住居を推定復元したもの。普通、夫婦と子供を中心とする4～5人の家族が住んでいた。	
11			弥生土器	半田山遺跡出土遺物（西条市）	高速道路の建設の際、発掘調査が行われ、23棟の住居跡や25棟の倉庫跡などが見つかった。土器や石庖丁、石の矢じり、鉄製のやじり･ナイフなどが多数発見された。	

12	大王の時代	36	前方後円墳の分布	伊予の前方後円墳の分布	古墳時代前期には愛媛にも今治平野を中心として、大和王権の支配を受け入れた強大な支配者が現れたことがうかがえる。	
13			石室	横穴式石室	遺体を安置する石室が通路で外部と結ばれ、追葬ができる構造。	
14			銅鏡	獣紋鏡・画像鏡	国産の鏡　獣紋鏡　古墳時代前期　今治市相の谷1号墳 中国後漢時代の鏡　画像鏡　古墳時代前期　今治市相の谷1号墳	
15		37	須恵器	須恵器	「馬評」・「久米評」と刻まれた、白鳳時代のもの。	
16	大化の改新	41	白村江の戦い	白村江の戦い　日本軍の瀬戸内海行程	この戦いで徴兵が実施された西日本の各地では、畿内王権による地方支配が進んだ。白村江の戦いの後、中国・朝鮮半島からの侵攻に備えた永納山城跡（西条市）がある。	
17	律令国家の成立と平城京	43	国府	伊予の国府	701年大宝律令　新たに国・郡・里制による律令地方行政が確立。	
18			駅	古代の駅路	30里（約16km）ごとに1駅を置いた。「延喜式」には大岡（旧川之江市）・山背（旧新宮村）・近井（旧土居町）・新居（新居浜市）・周敷（旧東予市）・越智（今治市）の6駅があげられている。	
19	奈良時代の人々のくらし	44 45	租、調、庸	木簡、円面硯	木簡：伝達文書などとして使用された文書木簡と税物などの荷物につけられた荷札木簡に大別される。 円面硯：1400年くらい前に役所や僧が使用していたもの。長方形の硯は10世紀頃に使われるようになる。	
20	天平文化	46	国ごとに国分寺と国分尼寺	伊予の古代寺院 瓦、経塚	7世紀後半、伊予では松山平野を中心に寺が建立された。奈良時代になると越智郡に国府が設置され、国分寺、国分尼寺も建立されたため、仏教の中心は今治平野へと移っていった。	
21	平安京と東アジアの変化	49	空海、真言宗	絹本著色弘法大師像:複製	鎌倉時代　大山寺（愛媛・四国霊場第52番札所）蔵 愛媛県指定有形文化財	
22	武士の成長	66	藤原純友	国尽倭名誉	国尽倭名誉　1853（嘉永6）年版 三代目歌川豊国によって描かれた「伊豫の掾すみとも」（藤原純友）の役者絵。左上端には豊国の門人である国邑の挿絵がある。	
23	武士の政権の成立	69	源平の争乱	源平合戦と河野氏の参戦	源頼朝の挙兵からまもないころ、伊予国では河野通清が反平氏方として挙兵。その後、河野通信が源氏方として屋島の戦いや壇ノ浦の戦いに参加。	
24	鎌倉幕府の成立と執権政治	70	守護、地頭	宇都宮頼綱像	伊予の守護には、佐々木氏や宇都宮氏が、地頭には東国の御家人のほか伊予の河野氏や忽那氏などが任命された。	

25	武士と民衆の生活	72	武士の生活	武士の食事 武士の訓練	これは、鎌倉時代の地頭級の武士の食事を推定復元したもので、秋の夕食を表している。 絵巻「男衾三郎絵詞」の一場面。「笠懸」が描かれている。	
26			武士の館	武士の館	西条市土居構などを参考に、地頭級武士の館を想定復元したもの。堀と土塁で囲まれた館は、「土居」とか「堀の内」とよばれた。	
27			荘園 地頭の支配	伊予の荘園、塩の荘園	伊予国では40あまりの荘園を確認。雨の少ない瀬戸内海沿岸では、塩を年貢として納めるところも数多くあり、弓削島荘もそのひとつ。	
28		73	民衆の動き	民衆の家 中世庶民の食事	片山内福間遺跡（今治市）をもとに復元した鎌倉時代の民衆の住居。同じく庶民の食事。	
29	鎌倉時代の文化と宗教	75	一遍	一遍立像 遊行上人縁起絵	河野通信の孫として道後で生まれた。信濃国（長野県）で始めた踊り念仏はやがて彼の布教の特徴ともなり、人々の注目を集めた。	
30	モンゴルの襲来と日本	76 77	元寇 文永の役 弘安の役	蒙古軍の冑・弓矢 蒙古襲来絵詞 河野道有	承久の乱で没落した河野氏の復興をはかろうとする河野通有は、弘安の役に一族をあげて参戦し、このときの活躍で九州をはじめ各地に所領を与えられた。	
31	南北朝の動乱と室町幕府	78 79	建武の新政 足利尊氏	南北朝の内乱	河野氏の一族の土居通増・得能道綱が南朝方として活躍。一方、建武政権の成立によって河野氏惣領の地位を追われていた河野通盛は、足利尊氏に合流して北朝方として活躍し、その恩賞として伊予国守護に任ぜられた。	
32	東アジアとの交流	80	焼き物	海城から見つかった品々 ～外国のやきもの～	海賊衆の海城から見つかる外国産陶磁器の量は大変多く、海を介して東アジアと結ばれた「しまなみ」の海城は、広域流通の中で重要な役割を担っていたと考えられる。	
33	産業の発達と民衆の生活	82 83	明銭	銭貨（宋～明）	銭貨[松山市長楽寺周辺] （宋～明）中世の日本では、中国から輸入された銭貨や、それを模した国内製の銭貨が生活の中で広く使われていた。また、銭貨は経済的な用途だけではなく、「まじない」に使われることもあった。	
34	織田信長・豊臣秀吉による天下統一	106	村上水軍 織田信長	海戦の様子 木津川口の合戦 織田信長朱印状	戦国大名にとって、海賊衆が味方につくことは大きな戦力となった。毛利氏が織田軍と戦った木津川口合戦では、村上氏などの海賊衆が毛利氏方として活躍し織田軍を破ったことで知られている。	
35	兵農分離と朝鮮侵略	108	太閤検地	豊臣秀吉画像 検地帳	伊予では領主として相次いで入国した福島正則や戸田勝隆、代官として派遣された浅野長吉によった行われた。	
36	江戸幕府の成立と支配の仕組み	112	関ヶ原の戦い	関ヶ原合戦図絵巻	関ヶ原合戦を戦局に沿って描いた絵巻。左側に石田光成の本陣、右側に徳川方の加藤嘉明が描かれている。	
37		113	おもな大名の配置	伊予八藩	伊予国では、1614（慶長14）年に宇和島藩が最初に成立し、以後大洲・新谷・松山・今治・小松・吉田と続き、1670（寛文10）年の西条藩の成立で伊予八藩時代を迎えた。阿波や土佐の一藩、讃岐の二藩と比較すると、伊予国はきわだって藩の数が多く、東予地方は藩領や天領（幕府領）が複雑に入り組んでいる。また、八藩の分布をみると、親藩である三藩と外様である五藩が巧妙に配置されていることがわかる。	

38	江戸幕府の成立と支配の仕組み	113	参勤交代	海の参勤交代 大鵬丸	宇和島藩伊達家が参勤交代に用いた御座船の大鵬丸を、船大工が残した図面と絵巻をもとに復元したもの。船型は、500石積みの標準的な関船で、1人漕ぎの櫓が68丁あった。総朱塗りの船体は上部を総矢倉で囲い、中には藩主用の屋形が設けられていた。	
39	さまざまな身分と暮らし	114 115	百姓	農民のくらし	村役人を通じて領主の支配を受けたが、生産活動や地域生活の面では多くの部分が農民の伝統的慣行にゆだねられていた。近世後期、経済活動の高まりとともに農民の生活の中に文字が浸透した。	
			町人	町人のくらし	城下町を中心に、在郷町・宿場町・港町が開かれ、さまざまな種類の商人や職人が居住し、地域の経済を支えていた。町は物だけでなく人や情報が行きかう場所であり、文化の交流も盛んに行われた。	
			武士	武士のくらし	武士は平時の事務をつかさどるため様々な役職についた。また、藩士に土地を与えて直接農民を支配させる地方知行制から、藩士の知行高に応じて米を与える俸禄制へと変わっていった。	
40	農業や諸産業の発達	120	別子銅山	産出量の表	大坂の住友家（泉屋）が1691（元禄4）年から採鉱を始めた。産出量は年々増加し、足尾銅山（栃木県）と並んで幕府財政を支えるほどになった。	
41	田沼の政治と寛政の改革	128 129	寛政の改革 昌平坂学問所 朱子学	尾藤二洲	松平定信は、江戸の湯島に昌平坂学問所を創り、ここでは朱子学以外の学問を教えることを禁じ、試験を行って有能な人材の登用を図った。尾藤二洲はこの学問所の教授として招かれた。	
42			財政難に苦しむ諸藩	藩札	諸藩は、17世紀後半から財政が苦しくなり、藩札と呼ばれる藩独自の紙幣を発行したり、家臣の俸禄を減らしたりした。	
43	外国船の出現と天保の改革	132	高野長英（蛮社の獄）	高野長英	蘭学では宇和島藩主伊達宗城が二宮敬作をはじめ高野長英・村田蔵六を援助し、医学や軍事科学を中心として新しい学問の導入を進めた。	
44		133	外国船に対する軍備	鋳山砲台絵図、諸藩の砲台設置場所分布図	開国により、瀬戸内海にも外国船が頻繁に現れるようになると、伊予各藩では海岸防備と軍制の近代化が急務となった。なかでも宇和島藩は開明的な藩主伊達宗城を中心に富国強兵策を推進し、軍備の近代化を進めた。	
45	新政府の成立	160	廃藩置県	愛媛県の誕生 松山藩知事訓令書	明治4年の廃藩置県で旧藩名のまま八県が成立。その後松山県と宇和島県に統合され、石鐵県と神山県に改められたのち、明治6年愛媛県が誕生。その後明治9年に愛媛県と香川県が合併し、"大愛媛県"が誕生。明治21年に香川県が分離するまで香川県民は愛媛県民だった。	
46	明治維新の三大改革	163	地租改正	地券	1880（明治13）年、地元卯之町の地券。田5畝5歩（約500㎡）の地価は14円97銭。地租は、1877（明治10）年に3%から2.5%に減じられた。	
47	自由民権運動の高まり	170 171	自由民権運動	愛媛の自由民権運動	自由民権運動の発祥の地である高知県の影響を受け、1877（明治10）年松山に公共社が設立され、演説会や出版などの活動が行われるようになった。	
48	立憲制国家の成立	173	帝国議会の開設 1890年最初の衆議院議員選挙	衆議院議員投票所入場券（1906）	1906（明治39）年　当時、投票所として寺院などが利用された。注意事項として、自ら被選挙人の氏名を書くことができない者は投票できないこと、印鑑を持参することが記載されている。	
49				第一回衆議院議員当選者一覧（1890）	当時の愛媛県は、一区（松山市など）、二区（越智郡など）、三区（上浮穴郡）、四区（宇摩郡など）、五区（東宇和郡など）、六区（北宇和郡）の6選挙区に分かれていた。	

50	日露戦争	179	日露戦争と「マツヤマ」	ロシア人捕虜収容所 ロシア人捕虜の落書き 日露戦争絵馬	松山は全国で最初の収容所。最大時の収容者は4,000人を超えた。松山収容所の特徴は、比較的将校が多いことにある。当初は寺院などを利用したが、城北練兵場に松山俘虜収容所付属病院（通称バラック）を建設するなど、随時収容所を増築した。捕虜送還は1906（明治39）年2月に終了。	
51	産業革命の進展	182	交通の発達	伊予鉄道　鉄道の変遷	1887（明治20）年、全国で3番目の民営鉄道として伊予鉄道会社が設立され、翌年には松山～三津浜間にわが国最初の軽便鉄道が開通。この列車は、夏目漱石の小説にも登場し「坊っちゃん列車」として知られている。一方、海上交通は明治に入ってからもめざましい発展を遂げ、県内外の船会社が阪神・中国・九州と四国を結ぶ航路を相ついで開設した。	
52				電車	1923（大正12）年頃松山の街を走っていた電車。電気を受けるトロリポールの向きから、側面から見て左から右へ走ることがわかる。運転台の大きなハンドルは、実は主導のブレーキ。	
53	近代文化の形成	185	学校教育の普及	学制 明治期の小学校 大正期の中学校	学制の制定以降、各地に小学校が建設され、国民への教育の基礎が固まった。教育の広がりの中で、優れた科学者が多く現れた。	
54	大正デモクラシーと政党内閣の成立	206	米騒動	愛媛の米騒動	愛媛の米騒動は、8月9日の越智郡今治町（今治市）をはじめ短期間のうちに県下10数ヶ所で発生し、なかでも、郡中（伊予市）・松山・宇和島の3ヶ所では、暴動を伴った大規模な騒動となった。	
55	広がる社会運動と普通選挙の実現	209	男子普通選挙の実現 普通選挙法	普通選挙法公布日の新聞記事 初の選挙日の新聞記事	愛媛の普通選挙運動は、1919（大正8）年に結成された、愛媛県普通選挙期成同盟会が中心となって推進された。	
56	戦時下の人々	226	国民の動員 配給	代用品 紙製洗面器・紙製茶托・木製戸車・陶器製戸車	戦争が長期化すると、主食である米の配給制や衣類などの切符制が実施され、国民の日常生活は様々な制約を受けるようになり、「代用品」が使われるようになった。	
57	日本の高度経済成長	254	国民生活の変化の変化と公害	1960年代の家庭生活	高度経済成長期には家庭に家電製品が普及した。特に、1950年代後半に普及した白黒テレビ・冷蔵庫・洗濯機は「三種の神器」と称された。 また、1960年代後半に普及したカラーテレビ・クーラー・自動車は「新三種の神器」と称された。	